

2011年6月7日(火)

SB 34およびAWGハイライト:

2011年6月6日月曜日

午前中、科学的・技術的助言に関する補助機関(SBSTA)の開会プレナリーが開催された。実施に関する補助機関(SBI)の開会プレナリーは、議題書の協議決着を待ち、この日一日中開催されず、結局、火曜日まで延期された。

SBSTA

組織上、事務管理上の問題：SBSTA議長のMama Konaté (マリ)は、暫定議題書(FCCC/SBSTA/2011/1)の新規議題項目に関し、提案を提出するよう締約国に求めた。

農業に関する作業計画との提案議題項目に関し、ニュージーランドは、カナダと共に、この作業計画は農業部門における適応および緩和に関係する技術的および手法論上の問題をSBSTAが探求できるようにするものだと発言した。ニュージーランドは、この提案はAWG-LCAの作業を支援するものであり、COP 17での決定に結び付くと明言した。

ブルーカーボン：沿岸海洋系に関し、パプアニューギニアは、この議題項目には湿地ならびに沿岸の生態系に関する考察が含まれると説明した。

自然の権利と生態系の十全性に関し、ボリビアは、生態系に対する気候変動の影響を議論する余地を求めた。

対応措置実施の影響に関するフォーラムについて、サウジアラビアは、この議題のマンデートは決定書1/CP.16 (AWG-LCAの作業成果)に基づくものであり、提案されている議題項目は対応措置の経済的社会的影響結果という議題項目に代わるものであると述べた。

水資源および水資源の管理に対する気候変動の影響に関し、エクアドルは、水に対する人間の権利を強調した。

アルゼンチンはG-77/中国の立場で、暫定議題書についてコメントし、AWG-LCAで未解決の問題をSBSTAへ回すことに対し警告し、AWG-LCAはSBSTAにより審議が義務付けられた特定問題について、その概要を把握しておくべきだと述べた。同代表は、ダーバンの前に再度SBs会合を開催することも求めた。

コンゴ民主共和国はアフリカグループの立場で発言し、AOSISの立場で発言したグレナダと共に、従来SBSTA議題項目に含まれてきた問題から作業を開始する一方、新たに提案された項目については協議をするよう提案した。オーストラリアはアンブレラグループの立場で発言し、REDDならびに影響・脆弱性・適応に関するナイロビ作業計画(NWP)に関するSBSTAの作業の重要性を強調した。ガンビアはLDCsの立場で発言し、LDCsにおける適応の実施支援でのNWPの強化と研究および体系的観測を強調した。グレナダはAOSISの立場で発言し、NWPの下での作業を加速的に推進する必要性を強調した。

スイスは環境十全性グループ(EIG)の立場で発言し、REDD+に関する手法論の審議の必要性を強調した。パプアニューギニアは熱帯雨林諸国連合(COALITION OF RAINFOREST NATIONS)の立場で発言し、REDD+に関する決定書1/CP.16での進展を強調する一方、ガイダンスやセーフガードの重要性を指摘した。南アフリカは、締約国主導で推進されているとの特性を強調し、ダーバンでのCOP 17およびCOP/MOP 7における透明性のあるプロセスを約束した。

SBSTA議長のKonatéは、締約国に対し、COP16で要請された問題を含め、以前からSBSTAで議論されてきた問題に関する作業を進められるよう、議題書の採択を提案した。さらに同議長は、新規の議題項目は協議する間保留するよう提案した。またKonatéは、対応措置の経済的社会的影響結果、対応措置の実施に関するフォーラムについて、SBI議長が協議を行っていると説明し、SBSTAもこの協議で得られた結論を取り込むことが可能だと述べた。同議長は、この提案は作業の進行を可能にするほか、新規議題項目に関する各国の意見表明も可能にすると強調した。

米国、アルゼンチン、EU、ベネズエラ、スリナム、コロンビア、エジプト、サウジアラビア、ブラジル、オーストラリア、フィリピン、エクアドル、スイス、インドネシア、中国、コスタリカ、シンガポール、マレーシア、トリニダード・トバゴは、このアプローチを支持した。ベネズエラは、この協議の結果、議題項目が却下される可能性がある」と強調した。アルゼンチンは提案を支持したが、協議結果が出るまで全ての新規議題項目を保留とすべきだと明言し、一部の項目を削除するとの協議結果もありうると示唆した。パプアニューギニアは、1週間以内にSBSTAプレナリーを再開し、議題書に新規項目を入れるかどうかに関する最新の協議結果を示すなら、従来SBSTAの議題とされてきた問題からの審議開始は支持できると述べた。

アンブレラグループは、農業を別項目とすることを支持した。米国は、対応措置、ブルーカーボン、水を既存の議題項目の中で議論するよう求めた。インドネシアは、農業などAWG-LCAで審議中の議題項目に関する議論に反対したが、議題書に関する協議は支持した。パキスタンは、水資源管理および農業を別の議題項目として、またはNWPの別な要素として議論するのが適切だと提案した。コロンビアはブラジルと共に、農業および水資源管理を既存の議題項目の下で議論することを支持した。

ブラジルは、ブルーカーボンなど他の提案項目は、審議開始するだけ十分に成熟した項目ではないと指摘した。また同代表は、農業などAWG-LCAで審議中の項目は別途検討されるべきだと述べた。アフリカグループは、スイスと共に、セクター別問題を別の議題項目として議論開始することに対し、懸念を表明した。

ボリビアは、議題にREDDを加えることに反対し、満場一致で採択されていないカンクン合意から発した問題を議題に含めることは受け入れられないと指摘した。同代表は、他の項目と共に保留とすることは受け入れられるとし、この議題項目の題目を「森林に関する措置」として、範囲を広げるよう提案した。

コロンビアはマレーシアと共に、REDDを議題として保持することの重要性を強調した。ツバルはフィリピンと共に、REDDに関するボリビアの立場には同情するが、異なる立場に対応する方法があると述べた。オーストラリアは、REDDは以前からSBSTAの議題であったと指摘し、REDDを他の新規項目と同じ分類に入れて検討すべきでないと述べた。ガイアナは、コスタリカおよびスリナムと共に、REDDをSBSTAの議題とするのはCOPの決定であるとし、いかなる締約国も、その後これを議題から外す権利はもたないと述べた。パプアニューギニア、ガイアナ、コスタリカは、議題項目の名称変更にも異議を唱えた。これに対し、ボリビアは、この名称を「REDDと森林関連の行動」とするよう提案した。

ツバルは、REDDの交渉においては透明性を高めるよう求めた。同代表は、REDDの交渉ではREDDの成果に実質的な利益がからまない附属書I諸国および非附属書I諸国の代表が進行役を務めるべきだと強調した。同代表は、全ての協議をコンタクトグループで行い、先住民や他の利害関係者が交渉に直接インプットできるようにすべきだと述べた。

SBSTA議長のKonatéは、REDDに関し協議を行うと同時に、対応措置に関してはSBIで協議を続け、SBSTAは午後には再開すると述べた。プレナリーはここで一旦中断した。

午後7時25分、SBSTAは短時間再開した。SBSTA議長のKonatéは、協議が続けられており、SBSTAは火曜日に再開すると締約国に告げた。

廊下にて

ボン気候変動会議は、青空と暖かな夏の日差しが注ぐ中、いつもどおりマリティムホテルで開会した。しかしこの日の終わりには、会議場内の雰囲気映しだしたかのように、曇りがちとなった。

午前中のSBSTAの会合以外、2つの補助機関の開会プレナリーは一日中、中断されたままであった。この遅れは、2つの補助機関で提案されている議題項目に関し、締約国の意見が分かっていたためである。カンクン会議の成果に基づく「従来の」議題項目において修正が出されたほか、多数の締約国が新規の議題項目を提案し、そのうちの一部は明らかに物議を醸すものであった。

このため、大半の参加者は、会議の開始を待つか、非公開の協議で議題項目での合意を目指すかして、一日を過ごした。午後7時に予定されていたボン市長主催のレセプション直前、議長はSBIの開会プレナリーを火曜日午前まで延期すると発表した。この遅れを見て、一部の参加者は「バンコク路線」だと発言した。ある参加者は、「バンコクの亡霊を呼び戻さないでほしいが、議題書で合意するための努力にかなりの時間を費やさなければならないだろう」と指摘した。

SBSTAプレナリーは、早く開始されたが、午前中の議論で、REDDなど、今後の進め方での意見の違いが表面化した。このため、非公式協議が行われた。夕方、一部の交渉担当者は、REDDの扱い方に関する合意達成を楽観視していた。しかし、午後7時半を前に、議長はSBSTAのプレナリーも火曜日まで延期すると発表した。ある参加者は、マリティムホテルを急ぎ足で出ながら「元のもくあみだ」と述べた。

GISPRI仮訳